

一 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

苔むした、ツガの原生林に迷い込んでいた。湿気を含み、ふわふわした森のカーペットが気持ちいい。地上から、①ミッセイする木々のあらゆる部分に至るまで、緑の苔がはびこっていた。アマゾンの熱帯雨林を上回る降水量が、この南東アラスカの森をつくりあげている。わたしは、この森の持つ不思議な力に導かれ歩いていた。その力とは、きっと、この森がでかがるまでの果てしない時間の気配なのだろう。ここは、その昔、氷河に覆われていたのだ。数日前、わたしはカヤックで、この近くの海に流れ込む氷河を見に行った。近づくにつれ、ブルーに輝く巨大な②ヒヨウヘギが高層ビルのような高さで空を覆ってくる。しかし、③氷河がわたしを圧倒するのはその大きさではない。ギーツ、ギーツと、氷河全体のきしむ音である。それは、昔、山に降り積もった雪が④堆積し、氷河となって流れ出し、気の遠くなるような時間をかけて海までたどり着き、こらえきれなくなり最後の伸びをするような音に聞こえるのだ。

さらに進んでいくと、わたしは⑤クズれた無数の氷塊の中にいた。すると、辺り一帯が不思議な音に包まれているのが分かった。ピシピシシ……、これはいったいなんの音なのだろう。じっと耳を傾けたくなるような心地よい音だった。それは、太古の昔の空気を抜きながら⑥アツシユクされた氷河の氷が水に還ってゆく音に違いない。なんて長い（A）の旅なのだろう。

わたしが歩いているこの森も、かつてはあの氷河に覆われていたのだ。いつのことなのだろう。氷河が後退し、地上にこの土地が現れたのは……。

生命のかけらさえもない、氷河が去った後の⑦無機質の大地。しかし自然は、⑧無駄な時間を長く費やしてはいない。いつしか⑨ゲンシ的な苔類が生え始め、植物遷移の最初のステージが始まってゆくのだ。（B）チョウノスケソウで覆われた土地は、ハンノキの森に変わってゆく。一見止まっているような森も、決して同じ場所にとどまってははいない。長いときの流れの中で、森は、いつしか次の世代の森に⑩適当な⑪ドジョウをつくりあげてゆく。シトカトウヒが全盛の時代もあつたろう。（C）今は、森の一生のクライマックス、ツガの時代である。森はもうこれ以上進まず、あとは長い時間をかけて⑫朽ち果ててゆく。

突然、シューツ、シューツというクジラの呼吸音が聞こえてきた。森を抜け、浜に出ると、二頭のザトウクジラが島の間を通り抜けようとしている。冬の間、南の海で何も食べずに過ごしたザトウクジラは、夏になると採食のため、豊かな極北の海に帰ってくるのだ。

夕暮れになり、ボートで海に出た。風もやみ、（D）ないだ海だった。わたしはザトウクジラの白いしぶきを目指してゆっくり進んでいた。

氷河が後退し、森が現れ、氷は海に還ってゆく。そして⑬クジラはこの海の恵みによって生きている。そして海は、このクジラの中に生きている。それならば、森も氷河も、そしてクジラも海も、みな同じことではないか。

わたしはいつか、目に見えるあらゆるものは、地球という自然が再生しているつかの間の表現物にすぎないのではないかと思うようになった。（E）さえその例外ではない。植物が大地から顔を出し、再び土に還ってゆくように……。それならば、無機物と有機物、生物と死物の⑭キョウカイはどこにあるのだろう。

あちこちから白いしぶきといっしょに呼吸音が聞こえている。わたしはいつかザトウクジラの群れの中にいた。風も波もなく、聞こえるのはこの呼吸音だけだった。⑮ザンショウが雲の色をどんどん変えてゆく。水平線から月が昇ってきた。なにか、別の天体にいるような気がしていた。突然、すぐ近くの海面からザトウクジラのしぶきが上がった。

⑤ わたしは水の惑星にいた。

（星野道夫著作集より）

※問一、問九はマークシートへ解答する」と。

問一 傍線①「氷河がわたしを圧倒するのはその大きさではない」とあるが、何がわたしを圧倒するのか。

最も適切なものを次の中から一つ選べ。【解答番号①】

- 1 森の持つ不思議な力
- 2 果てしない時間
- 3 空を覆う高層ビルのような高さ
- 4 氷河全体のきしむ音

問二 (A) にふさわしい語句を次の中から一つ選べ。【解答番号②】

- 1 氷河 2 時間 3 水 4 音

問三 傍線②「無機質の大地」とはどういうことか。最も適切なものを次の中から一つ選べ。【解答番号③】

- 1 苔類以前の生命がない大地 2 氷河の名残の氷が残っている大地
3 鉱物と苔しかない大地 4 生命のいない大地

問四 傍線③「自然は、無駄な時間を長く費やしてはいない」とは、どういうことか。

最も適切なものを次の中から一つ選べ。【解答番号④】

- 1 生命のかけらさえない大地にハンノキが生まれるまでの長い時間のこと
2 氷河が去った後の無機質な大地が長く続くこと
3 氷河が去った後の大地にいつしか植物遷移が始まること
4 植物は生命のかけらさえないと思われる氷河の中にもじっと生き続けているということ

問五 () B・Cに入る語句として最も適切なものを次の中からそれぞれ一つ選べ。

- (B) 1 もちろん 2 やがて 3 しかし 4 そして 【解答番号⑤】
(C) 1 したがって 2 すなわち 3 しかし 4 そして 【解答番号⑥】

問六 (D) にふさわしい語句を次の中から一つ選べ。【解答番号⑦】

- 1 夏のように 2 鏡のように 3 塊のように 4 空のように

問七 傍線④「クジラはこの海の恵みによって生きている。そして海は、このクジラの中に生きている」とあるが、どういうことか。最も適切なものを次の中から一つ選べ。【解答番号⑧】

- 1 自然の中で一つの生命が生きているということは、ほかの生命と相互にかかわりあっているということ。
2 自然から恵みを受けている生命は、また、自然に対して生命を還し生き続けているということ。
3 自然の生命は、この世界に生まれては滅んでゆくが、再び海に還って生まれ変わるとのこと。
4 自然の生命は、海から発生し、その海とともに滅んだ後も生きてゆくということ。

問八 (E) にふさわしい語句を次から一つ選べ。【解答番号⑨】

- 1 海 2 クジラ 3 人間 4 氷河

問九 傍線⑤「私は水の惑星にいた」とあるが、どういうことか。最も適切なものを次の中から一つ選べ。【解答番号⑩】

- 1 筆者は、地球上の大半を占めるものは海であることに改めて気づき、人間の傲慢さを思っている。
2 筆者は、クジラと人間とは自然の中で再生を繰り返す同じつかの間の存在だと思い、クジラの側から発想している。
3 筆者は、進化の歴史において自分もクジラも同じ哺乳類だという親しみを持って、クジラの生きる場である海を捉えている。
4 筆者は、すべての生命は一度は必ず海に還るものであり、再び海から再生するという意味をこめて「水の惑星」と呼んだのである。

※問十は筆記用解答用紙へ解答する。【解答番号⑪】

問十 文中の二重傍線㉔㉕の漢字はその読みを平仮名で記し、片仮名は漢字に直せ。